

広島派遣を振り返って

能生中学校 2年1組 阿部 凜平

僕が3日間で一番印象に残っているのは、原爆ドームを見たことです。理由は、世界遺産というものを実際に見る経験をしたことがなく、とても楽しみにしていたからです。原爆ドームの写真を見たことがあり、どのようなものか知っていたけど、実際に見た原爆ドームは、当時の悲しみや恐ろしさや、本当に戦争があったんだということを初めて感じる事が出来たのが、一番印象に残っている理由です。僕は出発式の挨拶で、被爆体験を語る人が年々減っているので、私たちが語り継いでいかなければならないと話しました。学校で仲間をしっかり伝えることが研修の機会を与えてもらった私の責任であると思って出発しました。

1日目は、山口さんの被爆体験講話がありました。そこで一番印象に残っている言葉は、「私たちは被害者ですが、被害者になった原因が必ずある」という言葉です。この言葉を聞いた時に僕は新しい視点を発見することができました。山口さんの講話のおかげでアメリカの立場に対する新しい考えを1日目で学ぶことができました。

2日目は、平和記念式典や、とうろう流しといったこの派遣研修でメインのイベントに参加をしました。平和記念式典では岸田総理の平和への願いや、小学6年生の2人の力強い発表がありました。小学6年生の2人の発表でとても心に残っている一言は、「皆さんにとって、平和とはなんですか？」です。この言葉に僕はとても考えさせられました。「確かに平和とはなんだろう」と、

考えました。僕が思う平和とは、戦争がなく、安心安全の暮らしができることが平和だと思います。

夜に行われたとうろう流しで、僕は、大きい文字で印象に残る言葉を書き、川に流しました。その一面に僕は、「核は滅亡」と書きました。なぜこの四文字にしたかという、今もまだ核兵器をもっている国がたくさんあります。核兵器がなければ人々は怯えることがなく、安心して暮らせるし、世界の平和にもつながると思ったからです。川にはとてもたくさんのとうろうが流れていて、とても綺麗でした。

3日目には、平和記念資料館と本川小学校平和資料館に行ってきました。平和記念資料館にあったのは、恐ろしいものばかりでした。当時の破壊された街の写真や、遺骨がとても並んでいた写真や、火傷を負った人々の写真がたくさんありました。僕はとても怖かったですが、学校の人のためにも頑張って見ていました。当時の軍服や、原子爆弾「リトル・ボーイ」の8分の1スケールのも物が置いてありました。本川小学校には、当時のまま残る鉄筋コンクリートの壁がとても印象的でした。

今回の研修で僕は、原爆の恐ろしさや、アメリカの新たな視点を改めて知ることができて良かったです。最初の挨拶でも言ったとおり、学校や身近な人に今回の研修のことを伝えられるように頑張っていきたいです。
